

港北区ティーボール大会 競技細則

はじめに

港北区少年野球連盟は、ティーボールゲームを通じて、以下を目的として大会を行う。

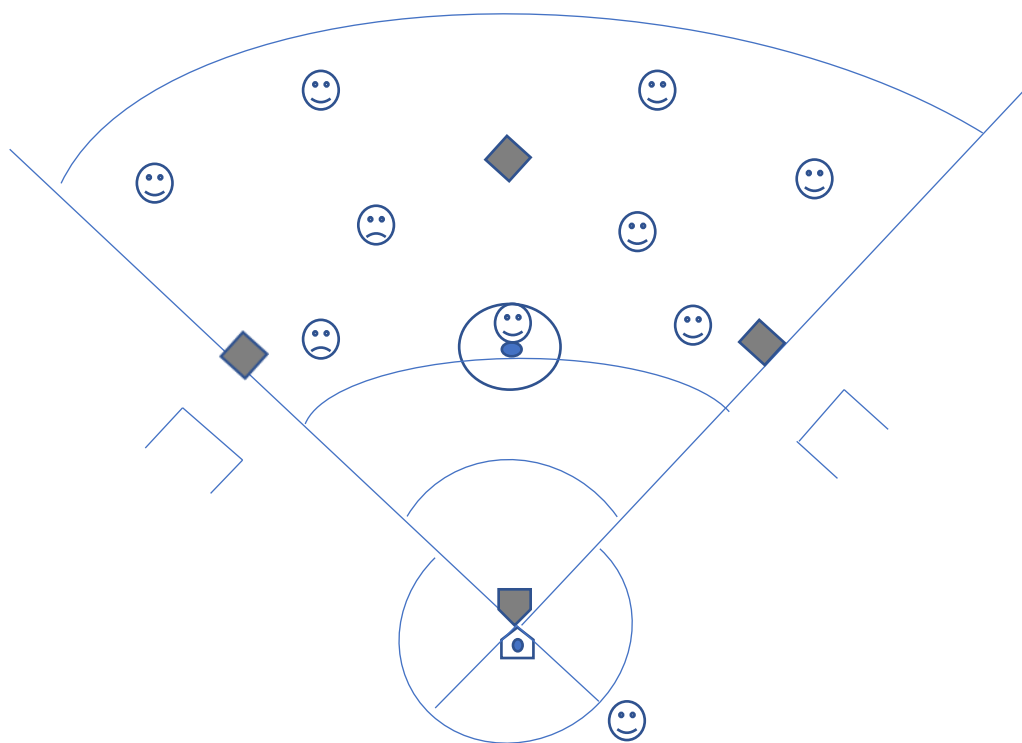
- ・野球人口の底辺拡大を目指し、各チームの部員を増やす
- ・子供の体力向上
- ・仲間との交流を深める
- ・野球の楽しさを学ぶ

本大会は勝利主義の追求ではなく、上記を達成することを目的とし、指導者は特に年少者のケガ等の防止に努めること。

1. グランドと用具

(1) グランド

- ①塁間は 16m とし、本塁から 2 塁間 22.6m、両翼・中堅はグラウンドの広さによって決定するが、基本は両翼・中堅 40m にホームランラインの弧を描く
- ②本塁・投手間は 11m、投手サークルとして半径 2m の円を描く
- ③本塁サークルとして、本塁プレートの角を中心として半径 3m の捕手ラインの弧を描く
- ④本塁から半径 4.5m にファールライン及び半径 10m に守備ラインの弧を描く
- ⑤バッティングティーは、本塁プレートの後方 50cm 以上 1m 以内の間に置く



(2) 用具

①主催者が用意するもの

使用球（KENKO 製 9 インチ：専用のティーボール）、ゴム製 T スタンド（高さ調整できるもの）、バット（T ボール用）、ベース

②各チームが用意するもの

グラブ、ヘルメット

2. 競技者

(1) 競技者

①競技者は試合当日に参加申し込みをした 7 名以上の小学校 3 年生以下（幼稚園、保育園児可）とする。また人数が揃わない場合は 4 年生も可とするが、右打者は左打、左打者は右打ちとする

②チームに所属しない野球未経験の 4 年生（以下、体験者という）の打撃は自由とする
但し、体験者は予め相手チームの監督の承諾を得る

③服装はスポーツ着（不揃いでも可）とし、各チームのビブスを着用（ユニフォームも可、背番号無しも可）

④競技者は連盟チームに所属の如何は問わない

⑤競技者は連盟チームの下、試合当日までにスポーツ保険に加入すること

3. 守備規程

(1) 守備者は原則 10 名までとするが、1 年生以下は制限を設けない

なお、守備者以外の選手はエキストラヒッター(打つだけの選手)となる

(2) 1 名は捕手、1 名は投手とする

(3) 捕手は打者が打撃を完了するまでは、捕手サークルの外（右打者の場合は 3 塁線の延長上、左打者の場合は 1 塁線の延長上）に位置しなければならない

(4) 4 年生の守備は不可とするが、未体験者は可とする

4. 打撃規程

(1) 打者は審判が「プレイ」と宣告した後、バッティングティーに載せたボールを打つ

(2) 打撃時の軸足の移動は 1 歩までとする。2 歩以上に動かしたときは、ワンストライクが加えられる。
ツーストライク後からこれを行なったときは、打者は三振とする

(3) 打者がボールを打たないで、ティーだけを打ったときは、空振りでワンストライクが加えられる。また、
ツーストライクからこれを行なったときは、打者は三振とする

(4) ツーストライク後からのファウルは、打者アウトとする

(5) バントやプッシュバントは認められない。ツーストライク後からこれを行なったときは、打者はアウトとする

5. 走塁規程

- (1) 走者は打者が打った後、離塁することができる。走者の離塁が早いときは、走者は離塁アウトになる
- (2) 盗塁は認められない
- (3) スライディングは原則禁止とする
- (4) 走者の 1 塁、2 塁、3 塁での駆け抜けは認められる(走者は塁ベースを駆け抜けた後、進塁の意志がない場合には野手にタッチされてもアウトにならない)

6. 試合

- (1) 試合の規定回数は、3 回とする
- (2) 試合時間は 30 分とする。また、試合時間は規定回数に優先する
- (3) 2 チームが攻撃側と守備側に分かれ、攻撃側の全打者が打ち終わったら、攻守交代する
- (4) 1 イニングの攻撃は継続打順で打者 10 人とする
- (5) 選手の交代は自由とする（攻撃時は 1 イニング 1 人 1 回まで）
- (6) 試合終了時に同点の場合は引き分けとする
- (7) 球審によって、「プレイボール」が宣告されると、試合は開始される
- (8) フェアボールとファウルボールは、野球やソフトボールと同じであるが、本塁から4.5mの弧内のフェア地域内でボールが止まったときはファウルボールとする
- (9) 野手は打者が打つまで、守備ライン（11m）の内側で守れない（審判が守備の準備ができる前に打撃をしたと判断した場合は打ち直し）
- (10) インフィールドフライのルールは適用しない
- (11) ホームランラインをノーバンで超えた場合はホームラン
- (12) ゴロ、又は野手に当たりホームランラインを超えた場合はツーベース
- (13) 登録された選手は、1 試合につき原則として最低 1 イニング以上プレーするか 1 度は打席に立たなければならない
- (14) 打球が野手から投手サークル内の投手に返球された時（取れなくとも取る意思があれば）、ボールデッドとなり、走者は占有塁に戻らなければならない
- (15) 捕手・打者・走者は必ずヘルメットを着用する
- (16) 走者のリードはできない（但し打ってからのスタート、タッチアップは可能）
- (17) 攻撃側の監督・コーチはコーチャーボックスでの指導(2 名)、球審の横で打者への指導(1 名)ができる。但しインプレー中に選手に触れての指導はできない
- (18) 守備側のチームは試合球ロスト防止のため、ホームランライン外側に大人 2 名を配置する
- (19) 以下の場合、アウトとする
 - ①打球がノーバウンド（地面に着く前）で捕球される
 - ②ゴロの打球の時、打ったランナーが 1 塁に到着する前に、ボールを持った守備の人が 1 塁ベースを踏む（1 塁を回って 2 塁、3 塁に進んだ時にはタッチが必要）
 - ③ベースを離れている時にボールでタッチされるとアウト

7. 得点

走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。

8. 審判員

- (1) 審判員は、2人制で行う。2人は球審と塁審(1塁)に分かれる。
- (2) 球審は、打者の正面横に、立つ。
- (3) 塁審は、1塁手の後方、1塁ファウルライン上に、立つ。
- (4) 球審は、3塁と本塁周辺のプレーをジャッジする。
- (5) 塁審は、1塁と2塁周辺のプレーをジャッジする。
- (6) 球審と塁審は、打者走者の進塁が一段落しボールが内野手か本塁手にもどったら「タイム」をかけ、次のプレーに移るように指示する。

9. その他

- (1) 守備側のチームは選手の安全確保や基本的なルールの指導のため指導者が2名までグラウンド内に入ることができる。
- (2) 指導者の服装は、チーム帽を被り、チームユニフォームか運動に相応しい格好とする。
- (3) グラウンド内の指導者は(1)の目的以外に選手やボールに触れることはできない。

令和4年3月 施行

令和4年9月 改正

令和5年3月 改正

令和7年10月改正